

史学専攻（博士後期課程）

1. 教育研究上の目的

史学専攻は、各自の専門分野において、安定した史料読解能力と深い研究理解に基づく創造性の高い高度な実証論文の執筆を継続し、その成果を博士論文にまとめることで研究・教育面において今後の歴史学界を担う人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

史学専攻（博士後期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「博士（史学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 専攻する歴史分野における先行研究に関する詳細かつ高度な専門的知識を有し、当該分野に関する史資料を独自に探索、蒐集、読解できる。
2. 先行研究への深い知見と高度な史資料の読解力を通じて独自に明確な課題を設定できる。
3. 適切な論理過程を経て、独創性が高く、当該分野の研究水準の向上に大きく貢献する新たな過去の歴史像を創造でき、歴史学界及び社会の発展に資することができる。

（思考・判断・表現）

4. 過去の歴史的社会の独自の性格を歴史学の専門知識に基づいて理解できる。
5. 先行研究の成果に関する深い知識と適切な一次史料の解釈に基づき設定した研究課題を論理的に判断し、適切かつ論理的な文章で表現することができる。

（関心・意欲・態度）

6. 研究対象とする歴史的社会に関する先行研究の成果を的確に踏まえた上で、独自の視点から課題を設定し、適切な史資料の蒐集・調査を適切な分析を経て、独創性が高く、学界の研究水準を向上させる研究結果を自立的に創造することができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

史学専攻（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 史料解釈能力や論文構成能力を高めるため、「日本史演習」「東洋史演習」「西洋史演習」

を配置する。(知識・技能／関心・意欲・態度)

2. 史料の性格を検討する技能や学説史を前提に思考する能力を修得するため、「古文書学文献学研究」「史学理論史学史研究」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現)
3. 学生が博士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「博士論文指導」を必修科目として配置する。(思考・判断・表現)
4. 個別テーマを深く探求する技能や思考を修得するため、「日本史特殊研究」「東洋史特殊研究」「西洋史特殊研究」を配置する(知識・技能／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、博士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、博士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

史学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 専攻しようとする歴史分野に関する高度な専門知識を有し、修士論文等執筆の経験があつて歴史学の研究手法を十分に習得している。
2. 希望する歴史分野での研究で用いる史料の高度な読解力とそのため語学力を有している。

(思考・判断・表現)

3. 人類の過去の歴史的社会のあり方や様々な歴史現象に幅広い関心を有し、それについて自らの研究を通じて、論理的な文章で独創的な研究成果を公表することができる。

(関心・意欲・態度)

4. 研究対象とする歴史的社会に関する独自の研究課題を設定し、当該分野の先行研究に関する十分な知見を有し、独自の視点を打ち立て、独創的かつ独自の研究を進める意欲を持っている。

以 上